

田原市民まつり

Tahara Citizens' Festival

10月24日[日]

じゃん田原りん踊りコンテスト
参加チーム大募集!

路上が光あふれるステージに
変身!

参加資格：日本在住の方 / 1チーム5人以上（中学生以下は保護者同伴）

賞：優勝...賞金 20 万円 / 準優勝...賞金 10 万円 / ほかに多数あり

応募方法：各世帯に配布したチラシに付属の申込用紙に必要事項を記入の上、直接またはファックスにて

締め切り：9月30日（木）

その他：10月4日（月）午後7時より市役所にて参加者説明会を行います。

応募・問い合わせ

田原市民まつり実行委員会事務局
（商工観光課内）

☎23局3516

FAX 22局3817

田原まつりのあらまし

田原まつりは八幡社・神明社・巴江神社の氏子のまつりで、八幡社は新町、神明社は本町・萱町・衣笠、巴江神社は巴江がそれぞれおまつりしています。八幡社の大祭は17日が宵祭り、18日が本祭、神明社と巴江神社は18日が宵祭り、19日が本祭です。

まつりは、昼間からくり人形を乗せた3台の山車や各町の神輿が街中を練り歩き、夜は着飾った子どもたちや青年が夜山車の上で手踊りを披露します。まつりのフィナーレを迎える19日の夕方になると、はなのき広場で手筒・大筒花火が、そして午後8時からクライマックスを飾る打上花火が披露されます。

田原まつりの主役たち

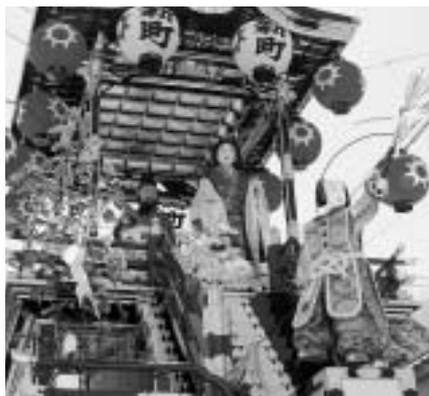
まつりの主役となる豪華な屋台仕立ての屋山車は、新町・本町・萱町が1台ずつ保有しています。田原の山車は宝暦7年（1797）8月に当時の本町上がり町・横町・中町が申し合わせ、合同で田原藩の浅黄無紋の横幕・天幕を借用し車を仕立てたことが始まりといわれています。また、山車からくりは二層唐破風屋形四輪の名古屋型と呼ばれるもの。中世に熱田と津島の天王祭りに出された「大山」がそのルーツだといわれています。

その昔、神々の依代とされた山車からくり。踊りながら変わり身する様に、人々は神々の降臨する姿を見たのでしょう。

新町山車 [應神天皇車]

應神天皇人形 / 女官人形
/ 唐子の采振り人形

昨年改修されたばかりで艶やかな新町山車。大将座に威厳のある應神天皇が立ち、右前に女官、前立人形には唐子の采振り人形がしつらえられています。唐子人形の巧妙で鮮やかなしぐさは必見です。



本町山車 [神功皇后車]

神功皇后人形 / 武内宿禰人形
/ 采振り人形

神功皇后と武内宿禰の新羅討伐の逸話『魚釣り人形』を参考にしたとされ、囃子にあわせて鮎を釣り上げ、喜ぶ様子を演じます。采振り人形は袴姿の男装で、目元に細工が施されており、返り目や舌出しの様子がユニーク。他にあまり例を見ない純日本風の前立人形です。



萱町山車 [総代人車]

日本武尊人形 / 総代人形 / 巫女人形

おどけた表情で人気が高いのが総代人形。日本武尊のお供として黒衣水干姿で白い御幣を左右に振りながら厄払いをします。赤い舌をペロリと出すことから「おべろべい人形」と親しまれています。

